

汲 沢 中

防災林再生に向け補植

「株主」制度で意識向上図る



災害時の避難場所でもある同校では、2009年11月に公益財団法人日本財団の助成を受け、1200本の苗木をグラウンドの外周に沿って植え、防災林作りをスタートした。シイノキやタブノキなどの照葉樹を植えることで、根が強く張り揺れに強くなるほか、水分を多く含む種類のため、火災にも強いという。

しかし、昨年6月に生育状況を調査したところ、予定通り成長している木もあつたが、約半数が枯れていたり、植栽の手入れの際に不必要な剪定が行われているなど、再生が必要な状況と判明。当時参加した生徒が卒業し、中心となっていた職員らも異動したことで管理方法などの引継ぎが不十分だったことが原因と見られている。今回は反省を生かし、継続して管理がで

市立汲沢中学校（栗原史生校長・生徒数502人）で「学校に森を作ろうプロジェクト」として植樹作業が4月4日に行われた。約4年前に防災林を作ろうと1200本の苗木を植えたが、約半数が枯死したため、今回280本を補植。生徒が関心を持ちやすいようにと新たな取り組みも導入している。

きるような体制を作り、防災林再生のための補植を実施することを決めたという。補植作業に向けて昨年は除草などの準備を行ったほか、新たに切り入れたのが「株主」制度だ。木に印となる番号を付けることで、「自分の木」への関心を高め、卒業後も分かるようにした。「植物についての出前授業も予定している。防災だけでなく教育にも役立つといい」と栗原校長。

に協力した。

補植作業当日は生徒約50人が参加。前回は協力したNPO法人国際ふるさとの森づくり協会の高野義武理事長が、苗木の植え方や森の役割などを紹介した。生徒たちはアドバイスを受けながら苗木を一つひとつ丁寧に植えていった。写真中には、植えた苗木の周囲に大きな目印を置き、「こうすれば目立って踏まれないんじゃないかな」と工夫す

今回は、幼苗植栽による森づくりに取り組むエスベックミック(株)から80本、ドングリから苗木を育てる活動を行っている社会福祉法人進和学園から200本の苗木が贈呈された。苗木の種類はタブノキやシラカシなど30種類で、生態学的にその土地に適したものが選ばれた。汲沢町の大島園も、苗木の根本に敷き詰めるための稲わら840kgを近隣農家から集めるなど、同校

る生徒もいた。苗木は順調に成長すれば、1年で1mほど伸び、数年で防災林になるという。